

仕直してボクゲットから兄の書面を出して大統領に渡しました所が、大統領は一言一句丁寧に讀み終りまして、夫から、大急ぎで何か書か付けて呼鈴を鳴らしました。『スグ此使を出してくれ』と這入て來た給使に言ひ付けました。そして置いて又、ブロッサムの方を向して、

『さー、もう之で宜いから、家へ歸てお父さんにアブラハム、リンコルンはベンニーの生命は銃殺の刑に處するのは餘りおしいから、罪は宥す事に決めたとお話なさい、さー、お歸り……イヤまー明日まで待つて居て、兄さんと一所に歸るかな、兄さんは、非常な手柄だったから、今に出世して明日歸らせることにしよう

ブロッサムは、この親切な言葉に對して、お禮の言ひ様もない位に有り難いと思ひました。

夫から二日たつて、ベンニーはブロッサムをつれて大統領官舎に参りました。参りますとすぐ大統領の居間へ通されましたが、そこでベンニーは兵卒から陸軍少尉に昇進せられました。其時大統領の申しましたには『病氣の友達を助けて、其爲めに何もいはいないで死に就かうとする程の兵卒は實に國家に取つて、最良の軍人といふべきじや』

夫から、ベンニーとブロッサムとは、いろ／＼親切に大統領からお話を聞いて、目出たく二人連れで、お父あんの所に歸つて來ましたといふことです。

いそつぷ物語

其三十四 犬と牡牛

一匹の犬が、まぐさ桶の中に這入て居て、牡牛と

もが其中のかれ草を食へに來ますと、しきりに齒をむき出して、吼へたりうなつたりして邪魔をします。すると一匹の牡牛が、連の牛に申しますに『マー何だつて此犬は慾張りじやないか、自分でかれ草をよう食へない癖に、他が食へに行かうとすると邪魔するのだもの!!』

其三十五 牡牛と車の軸

牡牛が重い車を引いて、田舎道をやって行きますと餘り重いので、車の軸が辛棒しかねて、恐ろしくなり響いて叫びます。そこで牛は後向いて『オヤ、なぜ君はそんな大きな音をさせるのだ、一體こんなに骨折てるのは、君でなくって僕だよ、だから、君よりか僕の方が叫び出すのが本當じやないか』

一番多ク苦シム者ハ一番少ク叫ブ

其三十六

一匹の獅子が年老つて、もうとても力づくで獲物を取つて食へることが出来ませんから、一番計略でやつて見ようと考へました。夫で毎日洞穴へ引込んで病氣で寝て居る風をして、なるべく太ぎように世間へ知れる様にして居ますと、獸どもは、夫を聞いて見舞にやつて來ました。すると其獸どもを、一匹づゝ片端から食へて仕舞ひますこんな具合に澤山の獸が食へられてから、狐がひよつと其計略を見附けました。夫で或日見舞にやつて來ましたが、決して洞穴の中には這入らないで、外に立つて丁寧に見舞の言葉のべて居ます。すると獅子は中から『私はこんなに病氣なのに、お前さんなぜそんなに外に立つて居るんです、まわ這入つて來て一寸見て下さい』と言ひますと、

狐は「やー、ありがたいがまー、止ませうよ、
貴下所の穴には、這入って行つた足跡が澤山ある
のに、歸つて来た跡は一つもないじあありませんか
他人ノ不運ヲ見テ自ラ戒、メル人ハ賢、コイ

●考へ物二つ

(一) 足も羽もなく、動く機械もなく、世界中を廻
つてるもの、これなわに？

(二) 毎日く進んで行って、決して戻らないもの、こ
れなわに？

●前號なぞの解

(一) 秋の虫とかけて。 答 ふらりん

心は風吹く毎に「りんく」(スズ虫) チンチヨ虫
「ちんく」の音が
する

(二) 夏休のお仕舞とかけて。

答 四國の西は

心は九州か(休終夏)

高 知 松岡 キクエ

他にも大分来ましたが、題があまりよくなかつた爲か甘く出
来たのがなくつて、先づ右に擧げたのが、其中で面白いと思
ひましたので、之を當選にしました。

ゆ き 子

おなぐさみ 在三河安城 久永みち子

愛讀者諸嬢!!! 徒然の餘り、仲のよいれ友だちをあ
つめて、次のよーなタワイナイ遊をして、抱腹絶
倒遊ばさるも、又一興で御座いませう。

やつて御覽あそばせ!!!

早口に云ひにくい語

向うの土手を唐人が提燈持つて通る。

有馬玄羽さんの玄關番の番台羽。

向うの壁へ竹立てかけた。

(おしまい)